



発行 特定非営利活動法人 NPO ぽぽハウス  
〒522-0043 彦根市小泉町 300-9 サウンドビルⅡ 2F  
(TEL)0749-27-9777 ・ 21-0664 (FAX)27-9888

E-mail popohouse@nifty.com ホームページ <http://www.popo-house.jp/>

ぽぽだより

### 新米編集部長が

いっしょ!

＃1 ～「ぽぽだより」も旅をする!

IN 大津 ～

とある日、事務局にて、「ぽぽだより」の編集打ち合わせのとき、編集担当責任者からポツリと出た一言…「各部からもらった原稿を編集するのもいいけど、自分の目で見て、自分の耳で話を聞いて、体使って汗かいて、紙面を作ることも必要じゃない!?」……ということ、今月号から不定期に(!?)はじまったこの企画(いつまでつづくか)、記念すべき第一回は、「ぽぽだより」の配布先のひとつである「淡海ネットワークセンター」と「滋賀県庁」への訪問の様子をお伝えします。

6月某日、梅雨の中休みの日差しの中、朝の一仕事を終え、10時に事務所を出発(この時点で予定の電車を2本乗り過ぎず)、「ぽぽだより」No.71・72号170部を持ち、一路大津市へ。

編集担当責任者 デスクF(仮名。誰もが知っているぽぽの顔の一人でいらつしゃる某施設長)と、新米編集部長 P 太郎(仮名。これからこの欄では、この名前でいきたいと思えます)は、普通電車でゆられること1時間、膳所駅到着。(ちなみに、この間も、デスクFの携帯にはひっきりなしに電話&メールが…);膳所駅から続く緩やかな坂道を、日差しを気にしつつづらづら歩きながら、めざすは「ピアザ淡海」。この建物の 2Fに「淡海ネットワークセンター」はあります。ここは、県内の様々な市民活動団体の拠点ともなる場所で、登録団体は約120団体もあつちるん、『NPOぽぽハウス』もその1つです。その団体の皆さんの連絡BOXに「ぽぽだより」を配布していきます。

配布が終わわり、一休み。ペットボトルの緑茶でティータイム兼他の団体さんのおたよりを目を通し、晴れたわたった琵琶湖の水辺の景色を愛で…る暇もなく、次は県庁へ。お昼休み明けの各部署を訪問、だったのですが、今年度の組織改編で、部署名が変更になったところも多く、受付のお姉さんに尋ねつつ、新館・本館を行ったり来たり。歴史ある建物につきものの「建て迷路」に右往左往しながら、お世話になっている関係諸機関にご挨拶を兼ねて「ぽぽだより」を配りました。ネットワークを通じて、また、行政の方を通じて、「ぽぽだより」とNPOぽぽハウスの活動が琵琶湖の周りを旅して、「ぽぽの輪」をいっそう広げてくれることを改めて願った小さな「旅」でした。

### 《 編集後記 》

今月から、「ぽぽだより」の編集にかかわらせていただく事になりました。つたない文章ですが、利用者さんの姿や、スタッフの元気を「ぽぽだより」を通じてたくさんの方にお伝えして、「ぽぽの輪」を広げていきたいな、と思います。会員の皆さんには取材や原稿依頼をお願いする事もありますが、そのときにはよろしくお願ひします。(P)

【 誰もが「生きていてよかった」といえる街づくり 】

# ぽぽだより



2008年6月25日発行



〜おやつづくり〜

今日のメニューは?

ぽぽげさじょうの はじまりで〜す!

お誕生日 おめでとうございます。

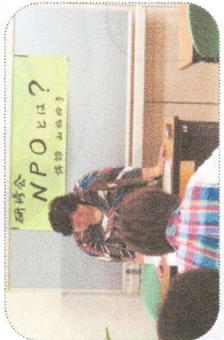
いつまでも お元気で!

おめでとう

# 総会を終えて



5月25日(日)、ハピネスひこねでNPOほぼハウスの通常総会が行われました。今年には特に素晴らしい総会になったと思います。昨年度の活動や会計の報告、そして今年度の事業計画に、私たちのミッションである『誰もが生きやすいよ



かったといえる街づくり』を実践してきたと言っ確信と誇りを、しっかりと感じ取ることができたからです。NPOについて学びなおすミニ講座を総会の前に行うという導入部分、さらにみんなの気持ちをひとつにしてくれたのでしよう。任意団体として産声を上げてから10年、よくぞここまで頑張ってきたよね！と振り返るひと時もあり、まさに“笑いあり、涙あり”の楽しい時間を、全員で分かち合うことができました。“誰かがやりたいと思っことは、みんなが支えあって実現していく”というほぼハウスの強みを、全員が再認識できたのではないでしょうか。



総会の後はお楽しみのお昼タイム。「今年のお昼は毎年よりちよつと豪華やで！」とあらかじめ聞いていたとおり、美味しいお弁当をいただきましたきながら、お互いの近況報告、10周年記念事業への提案などなど話題が尽きることなく、惜しみつつのお開きとなりました。

最後に、今年で理事を退任されることになった谷沢副理事長には、長年のご尽力に心からの敬意と感謝を表します。本当にお疲れ様でございました。(でも、これからも今までもと変わらずなく“ほぼの知恵袋”として陰で強力で支え続けてくれるのだと、みんな期待しています♪)



文責 成松

# ほぼクラス 第10期スタート!

4月から「ほぼクラブ たんぽほ組」が、3~4歳児と保護者を迎え、スタートして3か月が経ちました。毎回元気な子ども達の声が「ほぼハウス」に響いています。最初は緊張していた子ども達も回数を重ねるごとに友達、周りの環境、スタッフにも慣れあかるく生き生きとした表情が見られるようになりました。



ほぼハウスの高齢者の方と一緒にダンスをしたりお散歩で摘んだお花をプレゼントをしたりして「ありがとう。」と頭をなでてもらう姿はとても微笑ましく、家庭以外の大人とふれ合う良い機会だとあらためて思います。

また、天気の良い日には近くの神社や福満公園にお散歩に行ったり、月に一度の弁当日には子どもセンターへ出かけて行ったりして、親子でたづねりと遊びました。

砂のケーキやお団子、大きな山を作りトンネルを掘り水を流して砂の感触を楽しみました。

またトイレットペーパーの芯で双眼鏡をつくり、小高い山の頂上まで探検へ行きました。すると、「たんぽほ発見!」「OO発見!」と、手作りの双眼鏡という小道具があるだけで、すっかり気分は探検隊。山の色影を眺めたり、「ヤッホー!」と大きな声で叫んだり、心も体も解放され、みんなの顔がキラキラと輝いていました。



これからも、戸外で遊ぶ機会を多く持ち、親子で調理実習をしたり、電車やバスにも乗っていろいろなお出かけに行ったりして、子ども達の笑顔がたくさん見られるような楽しい活動をしていきたいと思っいます。

子育て支援部 田中